

宮城いきいき便り

いきいきSUNクラブ、宮城いきいき学園の活動を
紹介するページです

「お茶っこ」飲み楽しむ

宮城いきいき学園大崎校17期生



山田ユキエさん(73) 浦谷町

自宅のある涌谷町の団地の集会所で毎週水曜、仲間とともに住民向けのサロンを開催。毎回15人前後が集まり、リハビリ体操やタオル体操、ストレッチ、踏み台体操などを約1時間行った後、「お茶っこ」飲みをして世間話を楽



古着で作った小物

しんでいる。「参加者から月1000円を頂き、菓子やコーヒーの代金に充てるほか、漬物などを持ち寄りたり、差し入れてもらったりなど、団地の皆さんの協力があってこそこの活動と感謝しています」

年数回、自分たちで昼食を作り、一人暮らしの高齢者を招いて会食をしたり、ゲームをしたりしながら交流を図っている。団地にはボランティアで手作りの小物作りを指導してくれる人がいて、古着の小物作りも楽しんでる。

毎年の9月には自治会の福祉員と共同で、団地独自の敬老会を開催。手料理でもてなし、簡単なゲームなどをして



持ち寄った料理を味わいながら談笑する参加者

「会の名称も4年目に『ふれあいサロン』と名付けました。元気が

皆で楽しく「昼食会」

宮城いきいき学園石巻校2期生



南川鉄弥さん(86) 石巻市

1995年10月、宮城いきいき学園石巻校2期生として入学。97年10月に卒業し、学園生活で得た知識や体験を生かして地域の福祉活動に携わっている。

この人たちに身も心もリフレッシュして元気に過ごしてもらおうと、学園在籍中の97年4月に地区の民生委員、区長、市社会福祉協議会などの支援、指導を得て「ふれあい昼食会」を発足させた。通常、午前10時開始で午後1時に閉会する。「午前中は主にゲームを楽しみ、明るい笑顔と元気な声の中で、和気あいあいと進めます。特に紅白試合になると、応援は若者に負けず劣らずの熱気が会場を包



昼食前にゲームを楽しむ参加者

ころの思い出に浸りながら、楽しかった一日を終える。ふれあい昼食会は毎回20人ほどのスタッフで、70歳以上の一人暮らしの高齢者70人ほどが参加。年10回を開催目標に、休むことなく121回目まで順調に開催してきたが、東日本大震災の被害で会場の公民館が使えなくなり、やむを得ず中断した。「それでも徐々に明るい兆しが見え始め、ことし4月に待望の122回目を開催したときは、会場はあふれんばかりの熱気に包まれ、笑顔が絶えませんでした。これからも復旧・復興の合言葉で頑張ります」と意欲満々だ。

ゲームが終わるころ、ボランティアの食生活改善推進員と福祉協力員が腕によりをかけて調理した、おいしい昼食が用意される。みんなで感謝しつつ、食事に古鼓を打つ。昼食と懇談が終われば、ハーモニカ演奏に合わせ「月の砂漠」「故郷」「春の小川」といった四季折々の童謡や唱歌を大合唱。幼かった